

## 2 令和7年度 5重点に対応した青木小学校の取組について

重点項目	具体的な取組 ◎令和7年度 特に力を入れたい取組
① 保小中 一貫教育	◎保小中間の連携を密にした移行支援の充実 ・保小接続プログラムの実践と改善 ◎中学の教科担任制を見据えた授業と主体的な家庭学習に向けた取組 ・中学校での授業体験、中学校入学に向けた中学校校長講話 ・こまゆみ祭への参加、中学校体験入学の実施（授業、部活動の参観） ・3,4組と中学校C,D組との交流 ・PTAを主体とした「あおきっ子教育ポイント5か条」の実践 ◎高学年を中心に、教科担任制の一部実施（音・家・理・算+アルファ） ◎情報モラル（ネット・スマホ依存）への小中連携した対応 ・地区子ども会やPTA地区懇談会、小中合同通学路点検等の連携した運営 ・人権、学校保健、授業研究、新任地域研修についての小中合同開催
② 多様な 他者や 自然との かかわり	◎各学級の「 <u>中核活動（学級の宝）</u> 」の計画的な推進 ※4月～5月にかけて 中核活動の構想を全体共有（チューニング） <R6年度実績> 1年：自然との触れ合い                      2年：小豆の栽培と餡子料理 3年：モルモットとの暮らし              4年：義民太鼓&タブレットに挑戦 5年：木工制作、竪穴住居                  6年：修学旅行で青木を売ろう 3組・4組：野菜の栽培、販売活動の売上金でお出かけしよう ◎ <u>体験を通して学校と社会をつなぐキャリア教育の推進</u> ★THEお仕事ゼミ（仮称） 役場商工観光移住課と商工会とタイアップし、地域の会社やものづくりに携わる方にブースを設けていただき、働く人、思い、すごさに出会う。 ★外部講師を招いてのクラブ活動（サッカー、パンづくり、カラオケその他） ○稲作り（5年） ◎放課後児童クラブ、あおきっこ合宿で培った力をつなげる異年齢活動
③ 学力・ 体力向上 (学力・ 体力向上 事業)	◎ユニバーサルデザイン化された授業による学びやすさの向上 ◎「 <u>学び合い</u> 」を基軸にした、友と協働しながら追究する授業の実践 ◎ <u>授業ミーティングを通じた日々の授業改善と公開授業の実施</u> ・自己課題を設定し、授業を見合う機会を設ける ◎授業におけるICT機器の有効的な活用 ◎英語学習、外国語学習の充実 ・異年齢で関わりながら運動や音楽の楽しさを感じる全校集会の実施 ・体力テストの実施と結果分析、体力改善に向けた授業での取組 ・持久力向上をめざす自主的な活動 →あおきっ子チャレンジ（マラソン月間 大縄跳び・短縄跳び旬間）
(評価 システム の構築)	◎学習指導要領に沿った、評価の見直しと授業改善の実践 ・全国学力検査（6年）及び県PDCA事業（5年）CRT（各学年）の実施分析、分析結果に基づいた指導改善のための目標設定と評価検証 ・PDCAサイクルによる、教師の自己評価指標の作成
④ 子どもと 向き合う 時間の 確保	◎学期に一度、子どもの思いに寄り添う相談週間の実施 ◎子どもたちをチームで見守り、複数の職員がかかわる体制 ・QU実施による子ども理解と学級経営の充実 ◎ゆとりある日課（水曜清掃なし）諸会合の精選 ◎ <u>マンデー5：月曜日を5時間日課。下校後の1時間45分の有効活用</u> ・終礼の継続 ・プロジェクトチームによる振り返りと来年度の実施計画の作成
⑤ 一人一人 を大切に する教育	◎全職員で子どもの実態を共有する児童理解の時間の設定 ◎月1回、校内教育支援委員会を位置づけ、タイムリーに支援を行う。 ◎インクルーシブ教育による、合理的配慮を大切にした教育 ◎個別の支援計画の作成と運用 （支援計画をもとに連携した支援会議、次年度への引継） ◎保護者や教職員、SC、たんとう等、外部機関と連携した支援の実施 ◎ <u>ほっとルームの継続</u> ・子どもや保護者の悩みに対応する相談窓口・相談室の設置 ・人権教育・道徳教育の充実、食育・読書旬間等、心豊かな児童の育成 ◎教職員全員で取り組む非違行為防止研修、研修の実際を保護者へ周知

